

サステナビリティボンド / サステナビリティボンド・プログラム

外部レビューフォーム

セクション 1. 基本情報

発行体名:	ソウルオブジャパン株式会社
サステナビリティボンド又はフレームワークの名称:	サステナビリティファイナンス・フレームワーク
外部レビュー者名:	株式会社 日本格付研究所
本フォーム記入日:	2021年7月19日
レビュー公表日:	2021年7月19日

セクション 2. レビューの概要

レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則との適合性を確認した。:

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

外部レビュー者の役割

- | | |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

注: 複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

レビューのサマリー 及び 評価レポート全文への URL リンク

ソウルオブジャパン株式会社は完全閉鎖循環式陸上養殖技術によるアトランティックサーモンの養殖事業会社である Pure Salmon Group の日本法人として、2018 年に設立された。Pure Salmon Group はグローバルな投資ファンド運用会社である 8F Asset Management が管理している。8F Asset Management はシンガポールに本部を置くとともに、香港、ロンドン、フランクフルトに拠点を有し、世界の人口急増に伴ってより一層必要となる健康的で持続可能なタンパク質の供給を目指すとしている。

ソウルオブジャパン、ひいては Pure Salmon Group の行うサーモン養殖事業は 8F Asset Management が目指す SDGs の達成に貢献するべく運営されており、ソウルオブジャパン、Pure Salmon Group および 8F Asset Management のサステナビリティに関する取り組みはいずれも軌を一にするものとなっている。

ソウルオブジャパンは事業活動を通じて解決すべき環境・社会的課題として、食料自給率の改善、環境負荷改善、地産地消による経済活性化を掲げている。

今般の評価対象は、ソウルオブジャパンが債券または借入金等の手段により調達する資金を、社会的便益および環境改善効果を有する資金使途に限定するために定めたサステナビリティファイナンス・フレームワーク（本フレームワーク）であり、本フレームワークが「グリーンボンド原則（2021 年版）」、「ソーシャルボンド原則（2021 年版）」、「サステナビリティボンド・ガイドライン（2021 年版）」、「グリーンローン原則（2021 年版）」、「ソーシャルローン原則（2021 年版）」、「グリーンボンドガイドライン（2020 年版）」および「グリーンローンガイドライン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン（2020 年版）」に適合しているか否かの評価を行う。これらの原則等は国際資本市場協会（ICMA）、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）およびアジア太平洋ローン・マーケット・アソシエーション（APLMA）、ならびに環境省がそれぞれ自主的に公表している原則またはガイドラインであって規制ではないため、いかなる拘束力を持つものでもないが、現時点において国内外の統一された基準として当該原則およびガイドラインを参照して JCR では評価を行う。

本フレームワークにおけるサステナビリティファイナンスによる調達資金の資金使途は、ソウルオブジャパンが行うサーモンの完全閉鎖循環式陸上養殖プロジェクトである。同プロジェクトは(1)海洋汚染の防止および生物多様性の保全のほか、(2)消費者を対象とする食料の安全保障と持続可能な食料供給、(3)主として生産施設の所在地域およびその周辺を対象とする地域産業の活性化といった観点からの社会的便益が期待される。ソウルオブジャパンはプロジェクトの実施にあたり、公害事前審査をはじめとする各種調査や企業立地協定締結等に関する各種協議のなかで環境および社会に対する負の影響についての確認を行っている。その過程において三重県および津市で定められた排水水質基準の遵守、生産施設への太陽光発電パネルの設置による使用電力の CO₂ 排出量削減、有機廃棄物の最小化および適切な廃棄等の計画を立てている。JCR では、これらの施策を確認した結果、ソウルオブジャパンが環境・社会的リスクを適切に特定し、回避・緩和策を講じていると評価している。JCR は本フレームワークで定めた資金使途について、環境改善効果および社会的便益が期待されるものであると評価している。

本フレームワークにおけるサステナビリティファイナンスに関するプロジェクトの選定プロセスについては経営陣によって起案されたのち、ソウルオブジャパンに関するファンドの管理会社である 8F Asset Management にて選定、評価、承認するプロセスが想定されていることから、経営陣や出資者が意思決定プロセスに関与している。また、調達資金の管理についても適切な追跡管理体制を構築している。さらに、ソウルオブジャパンは資金の充当状況、環境改善効果および社会的便益に関して年に 1 回のレポートを予定しており、開示項目についても適切なものとなっている。

以上より、本フレームワークについて、JCR サステナビリティファイナンス評価手法に基づき「グリーン性・ソーシャル性評価（資金使途）」を“gs1(F)”、「管理・運営・透明性評価」を“m1(F)”とした。この結果、「JCR サステナビリティファイナンス・フレームワーク評価」を“SU1(F)”とした。また、本フレームワークは、「グリーンボンド原則」、「ソーシャルボンド原則」、「サステナビリティボンド・ガイドライン」、「グリーンローン原則」、「ソーシャルローン原則」、「グリーンボンドガイドライン」および「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」において求められる項目について基準を満たしていると考えられる。

評価レポート全文への URL リンクは以下をご参照。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

1. 資金使途

本項目に係るコメント欄:

- ・資金使途の 100%について、環境改善効果もしくは社会的便益が期待されるものである。
- ・本投資法人は環境・社会的リスクを適切に特定し、必要に応じた回避・緩和策を講じている

GBP における資金使途の分類:

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 汚染防止及び管理 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> クリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への対応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点において GBP 分類に該当することが予想される、または、まだ GBP 分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他 |

GBP 以外のタクソノミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

SBP における資金使途の分類:

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の基本的インフラ整備 | <input type="checkbox"/> 必要不可欠なサービスへのアクセス |
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の住宅 | <input type="checkbox"/> 中小企業向け資金供給及びマイクロファイナンスによる潜在的効果を通じた雇用創出 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 食糧の安全保障 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会経済的向上とエンパワーメント |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点において SBP 分類に該当することが予想される、または、まだ SBP 分類に含まれていないが適格ソーシャルプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他 |

SBP 以外のタクソノミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

2. プロジェクトの評価と選定プロセス

本項目に係るコメント欄:

サステナビリティファイナンスに関する選定プロセスについてはソウルオブジャパンの経営陣によって起案されたのち、ソウルオブジャパンに関するファンドの運用会社である 8F Asset Management にて選定、評価、承認される。ソウルオブジャパンにおける起案に際しては、社長を委員長とするサステナビリティ委員会にて討議、決定が行われる。8F Asset Management や Pure Salmon における選定、評価、承認に際しては、Facility Board Meeting や Pure Salmon Board といった機関において討議、意思決定が行われており、経営陣や出資者が意思決定プロセスに関与している。

JCR はこれらがプロジェクトの選定プロセスとして妥当であると評価している。

評価と選定

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている | <input checked="" type="checkbox"/> 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> サステナビリティボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施に伴う ESG リスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業の評価と選定基準の概要が公表されている | <input type="checkbox"/> その他 |

責任及びアカウンタビリティに係る情報

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> 社内で評価している |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

3. 調達資金の管理

本項目に係るコメント欄:

JCR ではソウルオブジャパンの資金管理の妥当性および透明性は高いと評価している。

調達資金の追跡管理:

- | |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> サステナビリティボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。 |
| <input type="checkbox"/> その他 |

追加開示事項:

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 新規投資への充当のみ | <input type="checkbox"/> 既存・新規投資両方への充当 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオベースの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオバランスを開示 | <input type="checkbox"/> その他 |

4. レポーティング

本項目に係るコメント欄:

a. 資金の充当状況に係るレポーティング

ソウルオブジャパンでは、サステナビリティファイナンスによる調達資金の充当状況について年次でホームページ上にて開示する予定である。また、調達資金の充当対象に滅失等の大きな変動が生じ、未充当資金が発生した場合も同様にその内容を開示する予定である。

b. 環境改善効果および社会的便益およびにかかるレポーティング

ソウルオブジャパンは環境改善効果および社会的便益にかかるレポーティング項目として、フレームワークに記載の内容をホームページにて年次で開示することを予定している。レポーティング内容は環境改善効果および社会的便益のいずれについても具体的かつ定量的なデータを含むものであり、サステナビリティファイナンスの効果が計測できるものとなっている。

資金使途のレポーティング:

個別プロジェクト・ベース

プロジェクトのポートフォリオ・ベース

個別債券への紐づけ

その他:

レポーティング情報:

充当金額

総投資額に占めるサステナビリティボンドによる資金充当の割合

その他:

頻度:

年に一度

半年に一度

その他:

インパクトレポーティング:

個別プロジェクト・ベース

プロジェクトのポートフォリオ・ベース

個別債券への紐づけ

その他

頻度:

年に一度

半年に一度

その他

レポート情報（理論値または実績値）：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> GHG 排出量 /削減量 | <input checked="" type="checkbox"/> 電力使用量 |
| <input type="checkbox"/> 水使用量 | <input checked="" type="checkbox"/> 受益者数 |
| <input type="checkbox"/> 対象となる人口 | <input checked="" type="checkbox"/> その他 |
- ・水資源に関する指標（水の循環率）
- ソーシャルファイナンスに関する社会的便益
- ＜アウトプット指標＞
- ・資金充当対象である養殖施設の概要
- ＜アウトカム指標＞
- ・養殖施設の生産出荷量
 - ・FCR
(Feed Conversion Ratio: 飼料要求率)
 - ・雇用創出（新規採用）人数
- ＜インパクト（定性目標）＞
- ・世界的な食糧需給ギャップ・課題への取り組み
 - ・地域社会における雇用促進・技術提供

開示方法

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 財務諸表における公表 | <input type="checkbox"/> サステナビリティレポートにおける公表 |
| <input type="checkbox"/> アドホック（非定期）刊行物における公表 | <input checked="" type="checkbox"/> その他:ホームページにおける公表 |
| <input type="checkbox"/> レポートの外部レビュー | |

有用なリンク

Pure Salmon Group Web サイト	https://www.pure-salmon.com/ja/home-jp/
JCR のサステナビリティファイナンス評価手法	https://www.jcr.co.jp/greenfinance/

外部レビューを受けた場合、その種類

- | | |
|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンド・オピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所

公表日: 2021 年 7 月 19 日

ABOUT ROLE(S) OF REVIEW PROVIDERS AS DEFINED BY THE GBP AND THE SBP

1. Second Party Opinion: An institution with sustainability expertise that is independent from the issuer may provide a Second Party Opinion. The institution should be independent from the issuer's adviser for its Sustainability Bond framework, or appropriate procedures such as information barriers

will have been implemented within the institution to ensure the independence of the Second Party Opinion.

It normally entails an assessment of the alignment with the Principles. In particular, it can include an assessment of the issuer's overarching objectives, strategy, policy, and/or processes relating to sustainability and an evaluation of the environmental and social features of the type of Projects intended for the Use of Proceeds.

2. Verification: An issuer can obtain independent verification against a designated set of criteria, typically pertaining to business processes and/or sustainability criteria. Verification may focus on alignment with internal or external standards or claims made by the issuer. Also, evaluation of the environmentally or socially sustainable features of underlying assets may be termed verification and may reference external criteria. Assurance or attestation regarding an issuer's internal tracking method for use of proceeds, allocation of funds from Sustainability Bond proceeds, statement of environmental or social impact or alignment of reporting with the Principles may also be termed verification.

3. Certification: An issuer can have its Sustainability Bond or associated Sustainability Bond framework or Use of Proceeds certified against a recognised external sustainability standard or label. A standard or label defines specific criteria, and alignment with such criteria is normally tested by qualified, accredited third parties, which may verify consistency with the certification criteria.

4. Green, Social and Sustainability Bond Scoring/Rating: An issuer can have its Sustainability Bond, associated Sustainability Bond framework or a key feature such as Use of Proceeds evaluated or assessed by qualified third parties, such as specialised research providers or rating agencies, according to an established scoring/rating methodology. The output may include a focus on environmental and/or social performance data, process relative to the Principles, or another benchmark, such as a 2-degree climate change scenario. Such scoring/rating is distinct from credit ratings, which may nonetheless reflect material sustainability risks.